

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 07016304
PUBLICATION DATE : 20-01-95

APPLICATION DATE : 29-06-93
APPLICATION NUMBER : 05182267

APPLICANT : ADERANS CO LTD;

INVENTOR : TSUCHIYA YOSHIHIRO;

INT.CL. : A61N 5/06 A61H 9/00 A61H 15/02

TITLE : METHOD FOR PROMOTING GROWTH OF HAIR

ABSTRACT : PURPOSE: To provide a method for promoting growth of hair on head skin in which a plurality of processes is systemized to match a mechanism restoring hair.

CONSTITUTION: After the removal of stains and waste matters from a head skin, the head skin is kept wetted sufficiently with activated water in which the concentration of dissolved oxygen ranges 10-20 ppm, and then, exposed to steam for a desired time. Thereafter, the skin head is kept wetted sufficiently using the activated water again. Then, it is irradiated with visible light beam and laser light beam separately and subsequently coated with a hair restorer which is blended with polysorbate 80 or the like. Thereafter, the head skin thus coated with the hair restorer undergoes a massaging process utilizing air pressure.

COPYRIGHT: (C)1995,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-16304

(43) 公開日 平成7年(1995) 1月20日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 N 5/06	E	7507-4C		
	Z	7507-4C		
A 6 1 H 9/00		8119-4C		
15/02	B	8119-4C		

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号	特願平5-182267	(71) 出願人	000126676 株式会社アデランス 東京都新宿区新宿1丁目6番3号
(22) 出願日	平成5年(1993) 6月29日	(72) 発明者	波井 史雄 東京都新宿区新宿1丁目6番3号 株式会 社アデランス内
		(72) 発明者	望月 広介 東京都新宿区新宿1丁目6番3号 株式会 社アデランス内
		(72) 発明者	土屋 佳洋 東京都新宿区新宿1丁目6番3号 株式会 社アデランス内
		(74) 代理人	弁理士 中山 輝三

(54) 【発明の名称】 頭髪の育毛促進方法

(57) 【要約】

【目的】 育毛のメカニズムに合った複数の工程をシステム化した頭皮の育毛促進方法の提供にある。

【構成】 頭皮の汚れ、老廃物等を取り除いた後、溶存酸素濃度が16ppmである活性水により頭皮を十分に湿潤せしめ、次にスチームを頭皮に所望時間あてた後に再度活性水を用いて頭皮を十分に湿潤せしめ、そして次に可視光線、レーザー光線を夫々照射し、そしてその後ポリソルベート80等を配合した育毛剤を塗布し、そして育毛剤を塗布した頭皮に対して空気圧利用によるマッサージ工程を行う。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 頭皮の汚れ、老廃物等を取り除いた後、溶存酸素濃度が10ppm～20ppmである活性水による頭皮湿潤工程を行い、そしてスチームを所望時間あてた後に再度上記頭皮湿潤工程を繰り返す行い、そして次に頭皮への可視光線照射工程とレーザー光線照射工程を行い、そしてその後ポリソルベート80を配合した育毛剤の塗布工程を行い、そして次に空気圧利用によるマッサージ工程を行うことを特徴とする頭髮の育毛促進方法。

【請求項2】 ポリソルベート60、L型アミノ酸群、パテント酸カルシウムを配合したトリートメントで頭皮の汚れ、老廃物を軟化せしめると共に、スチーム効果により上記汚れ等を地肌表面に浮き上がらせ、そしてポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸塩類、クロラミンTを配合したシャンプーで上記汚れ等を洗浄し、その後ステアリルアルコール、塩化セチルトリメチルアンモニウムを配合したリンスで頭皮、頭髮に潤いを与えることにより、頭皮の汚れ、老廃物等を取り除くことを特徴とする請求項1、2記載の頭髮の育毛促進方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、頭髮の育毛促進方法に関する。尚、本明細書において育毛とは、発毛を含む概念である。

【0002】

【従来の技術】 従来、男性型脱毛症や薄毛等を対象として、頭皮の血行を良くしたり、毛母細胞を活性化させたり、あるいは毛髪に栄養を与えたりするといった個々の育毛方法が行われていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし上記従来の育毛促進方法は、理論的には間違っていないが、結果として需要者の望むほどの顕著な育毛効果は現れていなかった。

【0004】 そこで、本発明者が鋭意研究を重ねた結果、所定条件の下で頭皮の湿潤工程、頭皮への可視光線照射工程、レーザー光線照射工程、育毛剤塗布工程、空気圧利用によるマッサージ工程をシステム化する事により相乗効果が現れ、従来技術に比して顕著な育毛促進効果が得られることを見出した。

【0005】 本発明は、従来技術の有するこのような問題点に鑑みなされたものであり、その目的とするところは、育毛のメカニズムに合った複数の工程をシステム化した頭髮の育毛促進方法の提供にある。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために本発明がなした技術的手段は、頭皮の汚れ、老廃物等を取り除いた後、溶存酸素濃度が10ppm～20ppmである活性水による頭皮湿潤工程を行い、そしてスチ

ームを所望時間あてた後に再度上記頭皮湿潤工程を繰り返す行い、そして次に頭皮への可視光線照射工程とレーザー光線照射工程を行い、そしてその後ポリソルベート80を配合した育毛剤の塗布工程を行い、そして次に空気圧利用によるマッサージ工程を行うことである。

【0007】 頭皮湿潤工程前に行われる頭皮の汚れ、老廃物等を取り除く工程を、ポリソルベート60、L型アミノ酸群、パテント酸カルシウムを配合したトリートメントで頭皮の汚れ、老廃物を軟化せしめると共に、スチーム効果により上記汚れ等を地肌表面に浮き上がらせ、そして、ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸塩類、クロラミンTを配合したシャンプーで上記汚れ等を洗浄し、その後ステアリルアルコール、塩化セチルトリメチルアンモニウムを配合したリンスで頭皮、頭髮に潤いを与えることとしたことである。

【0008】

【実施例】 以下、本発明の一実施例を説明すると、その概要は、汚れ、老廃物等の取り除き工程①→頭皮湿潤工程②→スチーム工程③→頭皮湿潤工程④→可視光線照射工程⑤→レーザー光線照射工程⑥→育毛剤の塗布工程⑦→空気圧利用によるマッサージ工程⑧とからなり、各工程を順に被験者の頭皮に対して行い、これ（上記①～⑧）を1サイクルとして所望サイクル（1サイクル以上／1日）を繰り返すことにより育毛促進を図る。

【0009】 【汚れ、老廃物等の取り除き工程①】 まず、所望成分（例えば、ポリソルベート60、L型アミノ酸群、パテント酸カルシウム、尿素、ブドウ糖、乳酸、香料等）を配合してなるプレトリートメント液（株式会社アデランス販売 ディオロス コンセントレート）を、スポイト等を使い直接被験者の地肌につけ、毛穴に詰まった頭皮の汚れ、老廃物を軟化せしめると共に、所望効果（スチーム効果、遠赤効果等）により上記汚れ等を地肌表面に浮き上がらせ、そして所望成分（例えば、ポリオキシエチレンラウリルエーテル硫酸塩、ラウロイルサルコシナトリウム、クロラミンT、香料等）を配合してなるシャンプー（株式会社アデランス販売 ディオロス スペシャルシャンプー）で上記汚れ、老廃物等を洗浄して取り除き、さらにその後所望成分（例えば、ステアリルアルコール、塩化セチルトリメチルアンモニウム、香料等）を配合してなるリンス（株式会社アデランス販売 ディオロス ヘアーリンス）で、頭皮、頭髮に潤いを与える。

【0010】 【頭皮湿潤工程②】 次に行う頭皮湿潤工程は、溶存酸素濃度が10ppm～20ppmとした活性水を、血行を促進せしめた頭皮に1分～数分程度吹き付け等して頭皮を湿潤させることにより頭皮に刺激を与えることである。

【0011】 上記溶存酸素濃度は、好ましくは12ppm～18ppmで、さらに好ましくは12ppm～16ppmである。溶存酸素濃度が10ppm未満であると

経時的な反復処理の割りに育毛効果が低く実用に不向きであり、20ppmより多いと生成コストに比して効率が悪く、また取扱いが難しい。

【0012】また、この活性水は15℃未満氷点以上の温域が好ましく、より好ましくは1℃～8℃で、さらに好ましくは3℃～5℃の温域としたものが好ましい。15℃を越えると溶存酸素が急速に減少して毛根部に対する刺激も少なくても効果が得られず、また氷点以下の場合には取扱いが難しく実用的でない。

【0013】上記溶存酸素濃度とした活性水を得る方法としては種々あり何等限定はされないが、その一例を示すと例えば特願平2-110113号記載の如き、1200℃で焼結したアルミナ60体積％、シリカ15体積％、窒化珪素5体積％、ジルコニア20体積％の0.5～2.0mmの焼成セラミックス粒状物を、水を張った水槽中に投入すると共に、その水中にオゾン含有エアを注入させて得たりする方法がある。さらに、育毛を助長するホルモン剤、ビタミン剤等を配合してもよく任意である。

【0014】そして、その活性水を所望な湿潤具、例えばキャップ状湿潤具（特願平2-44610）により頭皮の毛根部分に塗布、吹き付けたり（噴霧等）、あるいは活性水を満たした容器中に直接頭を浸したりして頭皮を十分に湿潤させる。

【0015】【スチーム工程③】次に行うスチーム工程は、従来周知のヘアスチーマーを使用し、上記活性水を吹き付けて十分に湿潤せしめた頭皮に所望温度（例えば55℃）のスチームを1分～10分程度あてる。

【0016】【頭皮湿潤工程④】そして上記スチーム工程後の頭皮に対し、上記説明した頭皮湿潤工程②と同様の頭皮湿潤工程を再度繰り返す。このスチーム工程と頭皮湿潤工程により、頭皮の血行が活発となる。

【0017】【可視光線照射工程⑤】次に行う可視光線照射工程は、所望な可視光線治療器にて、1500mμ～2900mμの波長を範囲とした可視光線を所望時間（例えば1分～15分）、頭皮に照射して新陳代謝の活発化、ホルモンの分泌等を促進させる。

【0018】【レーザー光線照射工程⑥】そして上記可視光線照射工程後に行うレーザー光線照射工程は、始めに頭皮における育毛を促すつばを、つば特有の良導点で的確に捕らえた後、1mmw～4mmwの範囲のレーザー光線で所望時間（例えば30秒～1分）照射することにより、細胞の活性化、賦活化をさせる。上記つば特有の良導点でつばを的確に捕らえる器具としては、スーパーレーザック（プライム工業株式会社製）等がある。

【0019】【育毛剤塗布工程⑦】次に育毛剤塗布工程を行い、これはポリソルベート80、ポリオキシエチレンシマシ油等を夫々所望割合いで配合して構成された育毛剤（株式会社アデランス販売 ディオロス ヘアトニック）を、頭皮部分的に、あるいは全域に所望量

（例えば1cc～5cc程度）塗布（吹き付け、噴霧）する。

【0020】【空気圧利用によるマッサージ工程⑧】そして次に、育毛剤の効果を高めるために空気圧を利用したマッサージ工程に移り、このマッサージ工程は上記育毛剤を塗布した後、空気の圧力差を利用してマッサージする、例えばコンセラー（株式会社コンセラン社製）を使用し、頭皮を所望時間（例えば1分～10分程度）マッサージする。

【0021】上記マッサージ工程は、適度な刺激を頭皮に与え緊張を緩和させて育毛剤の効果を高める。尚、上記マッサージ器具は一実施例にすぎず、これに限定はされず他の従来周知の器具であってもよいことはいうまでもない。

【0022】ここで具体的実施例について説明する。下記に示す内容、条件の各工程（汚れ、老廃物等の取り除き工程①→頭皮湿潤工程②→スチーム工程③→頭皮湿潤工程④→可視光線照射工程⑤→レーザー光線照射工程⑥→育毛剤塗布工程⑦→空気圧利用によるマッサージ工程⑧）を1サイクルとして、これを1サイクル以上/1日、そして一週間に2日の割合で6ヶ月間15名の被験者に対して行った。尚、被験者は夫々前頭部から頭頂部にかけて禿げ上がり、頭頂部に柔毛が残っているという状態であった。

【0023】まず、下記に示す所望成分を配合してなるプレトリートメント液（株式会社アデランス販売 ディオロス コンセントレート）を、スポイト等を使い直接被験者の地肌につけ、毛穴に詰まった頭皮の汚れ、老廃物を軟化せしめると共に、従来周知のヘアスチーマーを被り（5分～10分）、スチーム効果により上記汚れ等を地肌表面に浮き上がらせ、そして下記に示す所望成分を配合してなるシャンプー（株式会社アデランス販売 ディオロス スペシャル シャンプー）で上記汚れ、老廃物等を洗浄して取り除き、さらにその後下記所望成分を配合してなるリンス（株式会社アデランス販売 ディオロス ヘアールリンス）で、頭皮、頭髮に潤いを与える（汚れ、老廃物等の取り除き工程①）。

【0024】そして、キャップ状湿潤具（特願平2-44610）を各被験者の頭部に被せ、溶存酸素濃度が16ppmとした活性水（本実施例にあっては4℃に調整）を、頭皮にまんべんなく2分間吹き付けて（噴霧）頭皮を十分に湿潤させた（頭皮湿潤工程②）。

【0025】次に、上記したヘアスチーマーにより頭皮にスチームを10分間あて、そしてキャップ状湿潤具（特願平2-44610）にて再度上記構成の活性水を2分間頭皮にまんべんなく吹き付けた（スチーム工程③、頭皮湿潤工程④）。

【0026】そして、波長が600mμ程度の可視光線を10分程度照射し、次に各被験者の頭頂部や後頭部にある育毛を促すつばを、スーパーレーザック（プライム工

5

業株式会社製)を使用してつば特有の良導点での確にキ
ャッチし、そして上記キャッチした各つばに4mmw 程度
のレーザー光線を1分程度照射した(可視光線照射工程
⑤、レーザー光線照射工程⑥)。

【0027】そして次に、育毛剤(株式会社アデランス
販売 ディオロス ヘアートニック)を、頭皮にまんべ
んなく塗布し(育毛剤塗布工程⑦)、その後上記育毛剤
の塗布された頭皮にコンセラーを取り付けて空気圧によ
るマッサージを行う(マッサージ工程⑧)。また、パイ
ブレーションとタッピングによるマッサージを上記マッ
10 サージ工程⑧に代えて、あるいは上記マッサージ工程⑧
と共に進めてもよい。

【0028】上記具体的実施例による試験の結果、11
名の被験者に産毛が確認された。これを、前述のトリ
ートメント、シャンプー、リンスのみを1回/1日の割合
で6ヶ月間毎日行い、他の工程(頭皮湿潤工程②、スチ
ーム工程③、頭皮湿潤工程④、可視光線照射工程⑤、レ

6

ーザー光線照射工程⑥、育毛剤塗布工程⑦、空気圧利用
によるマッサージ工程⑧)を全く行わなかった試験(比
較例)と比べると、比較例では効果が現れたのが2名の
みという顕著な差が現れた。

【0029】尚、上記本実施例、比較例は上記同一の被
験者に対して行い、まず比較例を行った後、同一の15
名の被験者に3ヶ月間何等の育毛作業もせず、その後本
実施例を行った結果である。

【0030】

10 【発明の効果】本発明は、上記せるように汚れ、老廃物
等の取り除き工程後、頭皮湿潤工程、スチーム工程、再
度の頭皮湿潤工程、可視光線照射工程、レーザー光線照
射工程、育毛剤塗布工程、空気圧利用によるマッサージ
工程を、頭皮育毛のメカニズムに合うように所定内容、
所定条件の下でシステム化したため、育毛促進効果に対
しての相乗効果が顕著に現れる頭皮の育毛促進方法が有
効かつ確実に提供できる。